

従来はLoRaWAN™の通信方式として、端末・センサー等からサーバーへのアップリンク(クラスA通信)が一般的であったが、この度、**日本で初めて※ネットワークおよび端末におけるクラスB通信の実現性を確認**できた。これにより、端末からサーバーへのアップリンクだけでなく、サーバーから端末へのダウンリンクによる通信が可能となり、**ユーザーニーズに応じた更なる利便性向上が期待できる**。

※クラスB通信の実現は日本においてはNTT西日本が初。

## ■ LoRaWAN™通信方式

	通信	電力	用途
(従来) クラスA	アップリンク※1	電池駆動 (電力消費 低)	データ収集中心 (センサー情報・ステータス・機器ログ・エラーコード 等)
<b>日本初</b> クラスB	ダウンリンク※2		遠隔制御 (センタからの指示・開閉栓・ON/OFF 等)
クラスC	アップリンク・ ダウンリンク	電源駆動 (電力消費 高)	クラスA・Bと同等

※1: アップリンク・・・端末からサーバーへの通信

※2: ダウンリンク・・・サーバーから端末への通信

## ■ 利用シーン (災害時の対応)

### 従来

#### <現状>

- ・災害時はどの端末が閉栓・故障しているかのステータスが不明。
- ・ステータスが分からないため、全ての端末の状態を現場に訪問し確認が必要。

#### <ガス会社様のご要望>

地震等災害時に各メーターの  
開閉状態を確認したい。  
(端末は省電力で動作要)

### 今後

日本初  
NTT西対応

#### <実現できる利用シーン>

- ・サーバーから端末へ、災害後にステータス報告を指示し、ステータスの報告をサーバーに収集。

**・ステータスを把握することで、迅速で効果的な災害復旧が可能となり、ガス漏れによる2次被害拡大を防止。**

#### ※利用イメージ

